

6月28日～ 尾瀬沼・尾瀬ヶ原

和田 千恵

山名	尾瀬沼・尾瀬ヶ原（個人山行）	山行名	水芭蕉の尾瀬
ルート	6/28 大清水→一ノ瀬→三平峠→尾瀬沼 6/29 尾瀬沼→小淵沢田代→大江湿原→沼尻→見晴→尾瀬ヶ原 6/30 尾瀬ヶ原→竜宮→牛首分岐→山の鼻→鳩待峠		
山行日	6/28～6/30	天候	快晴
参加者	リーダー： 男性： 女性： 和田	サブリーダー： 合計： 1 名	

ルート概略図	コースタイム						
	地名		地名				
<pre> 小淵沢田代 ↓ 見晴← 沼尻 ← 大江湿原 ↑ ↓ 尾瀬ヶ原 尾瀬沼 ↓ ↑ 牛首分岐 三平峠 ↓ ↑ 山ノ鼻 一ノ瀬 ↓ ↑ 鳩待峠 大清水 </pre>	大清水	集	28日 11:15	沼尻	着	12:30	
		発	12:00		発	13:30	
		三平峠	着	14:15	見晴	着	15:00
			発	14:15		発	15:10
		尾瀬沼畔	着	14:30	東電小屋 (泊)	着	15:40
			発	14:45		発	30日 7:30
		尾瀬沼ヒュ ッテ (泊)	着	15:05	山の鼻	着	9:45
			発	29日 7:40		発	10:00
		小淵沢田代	着	8:55	鳩待峠	着	11:20
			発	10:30		発	11:40

山行報告

例会で実施したかったが、結局3年ぶりの個人山行となった。3日間快晴で、7月1日の至仏山山開き前の平日とあって、登山口の大清水から人はまばら、山も湿原も独占状態。

6月下旬とは言え、日差しは燦燦と空は碧く、尾瀬沼の河畔に到着するとあの燧ヶ岳が見え始める。少し行くと、沼に映る雄大な山が私を歓迎してくれた。水芭蕉の葉っぱは大きくなっていて、盛りは過ぎている。でも、私を待っていてくれたかのように1輪しっかり顔を見せてくれた。

湿地には、尾瀬特有の草花が続き、定宿の小屋に着く。夕食時、小屋の責任者が背後から、私の来ていたTシャツをみて、自分が10年前にデザイン、モンベルとコラボしたもの、今は手に入らない、スタッフが羨ましがっていると話しかけてきた。びっくりしたり嬉しかったり。尾瀬を愛し続け尾瀬でしか着ないので、綺麗なままの数年前の黄緑の「尾瀬人」Tシャツだ。読み方は「おぜびと」とばかり思っていたが、「おぜじん」と分かった。

翌日も良い天気。東電小屋まで時間も余裕あり、小淵沢田代への小高い山を1時間ほど追加して尾瀬の周りを巡る予定に。小淵沢田代に着いた後、戻るべきところを前進し、何回か通っている道なので下るはずが上りでおかしいと思ったら、東電が開発した送電線のある広場(1980m 地点)に出た。遠くに鹿が2頭横切ったのを見ることができた。これは違うと、すぐに戻って問題なかったが、何回も来ている場所こそ確認が必要だった。

大江湿原に出て沼をめぐり、4年前、燧ヶ岳・至仏山に登った時に宿泊した見晴の弥太郎小屋をすぎ、あの時のしんどさを思い出した。尾瀬ヶ原に入る道すがら、山から注ぐ冷たい水の流りに可憐な水芭蕉が並んで咲いていてくれて、感激！前回3年前の散策での昼食時、尾瀬が好きで退職後に沼尻茶店に勤務したというおじさんとの会話を思い出し、閉鎖されているのが残念だったが、一人旅のランチタイムもゆっくり取って東電小屋に着いた。

最終日30日は、鳩待峠登山口に戻る散策で、竜宮の湧き水、牛首からの逆さ燧などを見ながらゆっくり歩き、人も多くなる。レンゲツツジ、カキツバタが咲き、水芭蕉とニッコウキスゲの端境期の静謐な時だった。

山の鼻からは、鳩待峠までの緩い登り。峠から尾瀬ヶ原に下って入る中学生や小学生の団体がひっきりなしで、あいさつしながら行くと、捻挫して手当を受けている小学生に出会った。大きなリュックを下ろして三角巾で手当をしてあげている人を見かけ、養護教諭はそれを眺めていたが、こんな時にこそその応急手当と思ったものだった。3日間の天気感謝！無事戻ってこられたことに感謝です。

追記 鳩待峠から乗合バスで戸倉まで降りたが、温泉施設も旅館の日帰り温泉もすべて休業中！

仕方なく、1本早い高速バスで新宿まで帰り、観光案内所で教えてもらった「東宝湯」という下町の銭湯でさっぱりしてから深夜バスで早朝帰宅できました！

次は、9月の草紅葉です。



ヒヤリハット：なし

